

主体的・協働的に学ぶ授業を通して、思いや考えを深める児童の育成

久我山分科会提案資料

児童の実態

4年生4人、5年生7人、6年生5人の高学年グループ。話を集中して聞くことが苦手で、聞いても理解できていないことが多い集団。言語表現にも差があり、根拠を話せる児童は少ない。食に関しては、興味をもっており、毎日の朝の会では、給食の献立を確認し、どんな食材が使われているのかを把握している児童もいる。9月に行った養護教諭による栄養の授業では、どんな食べ物がどんな働きがあるのかを学習して、簡単なものは仲間分けをした経験がある。自由に献立を考えることはできるが、様々な条件を考慮して考えられる児童は少ない。また、自分で考えを修正していくことが苦手な児童も多い。知識や言語の表現力に差の大きい集団である。

児童に付けたい力

- ◎自分の思いをなんらかの方法で表現できる。
- ◎困ったときに、だれに、どんな質問をすればよいのかを考え実行できる。
- ◎話し手の意見を聞いて、自分の考えに生かすことができる。
- ◎生きていくために必要な「食」についての知識を得ることができる。

思考力・判断力・表現力

知識
技能

分科会テーマ

「わかる！できる！活動」を通して、思いを伝え合う児童の育成

テーマに迫るために（年間を通じて意識的に取り組む手立て）

- ・各単元で指導事項を明確化し、その項目を重点的に指導する。また指導事項にふさわしい言語活動を、実際の活動を通して行い、生活の中で生かせるように活動を計画する。

	教材名	指導重点事項	言語活動
6 9 11 2 月	誕生日会をしよう	友達の発言をよく聞く。 自分の番がきたら話す。	歌や遊びの候補を挙げ、みんなで体験し相談しながら決定していく。
9 月	健康に生活しよう （体に必要な栄養）	食材の名前を知る。 どんな働きをする栄養かを知る。	よく聞いて質問する。 食材の仲間分けをする。
12 1 月	給食の献立を考えよう	自分の考えを表現する。 比べながら話を聞く。 分からないことは質問をする。	献立を考える。 献立を立てるために必要な条件を知り、自分の考えに生かす。
2 月	インタビューをしよう	聞きたいことを適切に尋ねる。	学級文集の先生のページを、インタビューしながら作成する。

日常活動の取組として

- ・月曜の全体の朝の会で、土日の話を発表したり質問したりする。
- ・学級での朝の会で予定を聞いて、理解をしているか質問されたことに答える。自分で分からないことを質問する。
- ・毎日の献立の確認、給食時に栄養士からのお手紙を読む、献立名を言うておかわりをする。
- ・道徳やグループで、話し合い活動をする。

【生活単元学習とは】

- ◎ 特別支援学級の教育課程では、小学校学習指導要領に基づき、学級の実態や個人の障害の程度等を把握し、各教科の目標・内容を下学年のものにしたり、特別支援学校の各教科等を合わせた指導を取り入れたり、学習上・生活上の困難・克服を目的とした学習を取り入れたりしている。
- ◎ 生活単元学習は、児童が目標を達成したり課題を解決したりするために、一連の活動を組織的・体系的に経験することによって、自立や社会参加のために必要な事柄を実際的・総合的に学習するものである。生活単元学習を一定期間継続していくことは、生きる力を育てていくものであり、見通しをもって学習に取り組めるようにするために、毎週一定時間以上の位置づけをしている。
- ◎ 久我山学級の生活単元学習では、生活に密着したことが一人できるように以下のことに取り組んでいる。
 - ・ 誕生日会（司会進行、初めの言葉、終わりの言葉など）
 - ・ 移動教室に向けての取り組み（布団の敷き方・畳み方、荷物の整理の仕方、お風呂への入り方、手ぬぐいの使い方など）
 - ・ 栽培活動「季節の野菜」
 - ・ 調理「栽培した野菜を使って」など（今年度は、実施していない）
 - ・ 歩行学習（近くの公園）（異学年での移動の仕方）
 - ・ 手作業「アイロンビーズ」「刺繍」「卒業・入学の飾りづくり」
 - ・ 身のまわりのこと「生活習慣」「身体や心のこと」「安全について」
- ◎ 通常学級では、日常的に行いながら周りの様子を見て真似てできるようなことでも、久我山学級では、一人一人に適した理解しやすい言葉に置き換えて説明をしたり図式化したりして示しながら実際に教師と一緒にを行う活動を多く取り入れ、生活力・生きる力を育むようにしている。

【生活単元学習を選んだ理由】

- ◎ 主体的に思いを伝えあうことができると考えたから。児童が実際の生活の中で生かされる活動が含まれるので、学習のイメージがもちやすく、「考える・質問する・話し合う・聞く」という活動の目的がはっきりする。
- ◎ 生活単元学習が「食」というテーマを取り上げることができる教科だったから。多くの児童が興味のある共通体験が「食べる」ことである。生活単元学習では「食」に関する学習として、「季節の野菜を育てよう」や「じゃがいもを育てよう」から自分たちで作った食材を使って「調理実習」を行っている。今年度は、調理はできなかったが、できた野菜を持ち帰ったり各家庭で調理をしてもらったりしていた。
- ◎ これからの生き方につながると考えたから。考えた献立が実現すれば、「自分でも、何かを変えられる、提案できる、自分の考えも大切な一つの考えである。」ということが、今後の生活、将来にわたって大切な経験になる。

久我山学級 生活単元学習 学習展開案

令和3年1月27日（水）第5校時
杉並区立高井戸第二小学校

授業者 T1 川野 明子
T2 釣 真夕美 遠藤 佑輔
山田真利江 山口 廣太
向野美沙子
GT 服部 悦子 嘉山 幸子
介助員 多田 恵一 山澤 和子

1 単元名 「給食の献立を考えよう」（全11時間）

2 単元の目標

- 分からないときに調べたり，聞いたりすることができる。
- 生きていくために必要な「食」についての知識を得ることができる。
- 献立を考えて，発表することができる。

3 単元の評価規準・単元に即した具体的評価規準

	ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○生きていくために必要な「食」についての知識を得ることができる。 ○より良い伝え方について知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○献立を考えたり，見直したりすることができる。 ○相手に伝わるように発表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動に興味をもち，すすんで参加している。
学習活動に即した具体的な評価規準	<ul style="list-style-type: none"> ○給食の献立の名前を知ることができる。 ○献立を考える際のポイントについて知ることができる。 ○相手に伝わりやすい言い方や手段（絵や図を用いる等）を知ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○献立を考える際のポイントを意識しながら，自分の考えた献立を見直すことができる。 ○自分の考えた献立の良さを伝えるために，言い方を工夫したり，絵や図などの手段を使ったりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すすんでより良い献立にしようとしている。 ○分からないときに調べたり，聞いたりすることができる。 ○学習の方法（一人で・友達と・教員と）を選ぶことができる。 ○すすんで自分の考えを発表しようとしている。

4 単元の構成

(1) 学習材について

「食」は、児童が興味をもって関わることでできることの1つであり、また、児童がこれから生きていくうえでも欠かすことでできない、非常に大切なことでもある。久我山学級では、朝の会での献立発表、調理学習（今年度は未実施）、給食指導などを通して、様々な食材や料理に触れさせ、児童の「食」に関する引き出しを増やしている。本単元では、児童にとって身近である「給食」を題材にすることで、興味をもって取り組めるようにするとともに、栄養素・食材・旬・作る手間など、これまであまり意識していなかったであろう内容にも触れ、これからの食生活に少しでも生かしていけることを期待する。

また、自分の考えた献立を下級生や栄養士に向けてプレゼンし、それに対して評価をもらったり、実際に給食に取り入れられたりすることによって、「自分が「伝える」ことによって、何かを変えることができる」という実感をもてるようにしたい。

(2) 学習者について

久我山学級は知的障害の特別支援学級であり、今回の学習者は、4～6年生の16名である。障害等による特性は人それぞれであり・知的にも個人差が大きいため、個別や少人数での丁寧な指導が必要である。

食べることに関しては、味覚過敏や偏食等の個人差がある。しかし、全員が給食の時間を楽しみにしており、献立を聞いて「〇〇って何?」「〇〇って何が入っているの?」と質問する姿が見られる。9月に養護教諭による栄養の授業を行った際も、興味をもって聞いている児童が多く、その後の給食の時間には、栄養士に「これは赤（の食べ物）ですか?」と質問する姿も見られた。

「相手に伝えること」に関しても個人差が大きく、苦手としている児童が多い。自己肯定感が低いために自分の考えを表に出したがない児童、分からないことがあっても自分から質問できない児童、伝えたいという思いは強いが、思いつくまま話すために相手になかなか伝わらない児童など、様々である。

本単元では、児童にとって身近であり、且つ全員が興味をもっている「給食」を題材にすることにより、これからの生活でも大切な「食」について意識させるとともに、相手に尋ねたり伝えたりする力を伸ばしたい。

(3) 研究主題に迫る手立て

① 「わかる」工夫

●わかりやすく興味を引く教材

上記でも述べたが、「食」は児童にとって興味のある題材であり、その中でも給食は、児童にとって最も身近で、且つ共通の「食」である。この給食の献立を自分で考えるというのは、児童にとって興味を引く内容であり、「自分の考えた献立を実際に出してもらえるかもしれない」という期待感から、意欲をもって取り組むことができると考えた。

●授業の見通しを持たせる

本単元のゴール「久我山学級で考えた献立を、実際に給食で出してもらおう」を第1時で提示することにより、単元全体を通して、児童自身が「今どうして・何のためにこの学習をしているのか」を常に念頭に置いて学習に取り組めるようにした。また、活動の終わりの時間を明確にしたり、授業の最後に必ず「次の時間には何をするか」を予告したりすることで、安心して取り組むことができると考えた。

●『こんだての極意』の活用

第3時に、実際に栄養士から、献立を考える際のポイントについての話を聞く。このポイントは『こんだての極意』として、簡単な分かりやすい言葉で教室に掲示する。献立を考える際に、いつでもこの掲示を参考にできるようにするほか、実際に給食を食べながら「本当だ、赤と緑と黄色の栄養が全部入っている。」「やっぱり牛肉は入っていなかった。」と気付くことができるようにしたい。また、第4時以降の授業では、導入部分でこの『こんだての極意』を復唱させることで、「献立を考える時には、4つのポイントに気をつけるんだな。」と意識させることができると考えた。

●練習タイム

自分たちが考えた献立を直す前に、「練習タイム」を設ける。この練習タイムでは、教員の考えた幾つかの献立（修正が必要）の中から1つ選び、より良い献立に直すという活動を行う。献立を直すという体験をしたり、調べたいとき・分からないときの手段を知ったりした上で、本番（自分が考えた献立をより良く直す）を行うことで、児童が安心して活動に取り組むことができると考えた。

② 「できる」工夫

●選べるワークシート

献立名だけを書く形のもの・絵や図を描けるもの等、児童が自分でワークシートを選んで学習に取り組むことができるようにする。

●学習の方法の選択

献立を考えたり、より良く直したりする活動の際は、「自分一人で考える」「友達と一緒に考える」「先生と一緒に考える」など、児童の意思で学習の方法を選べるようにした。また、活動の途中でも、児童の様子を見ながら「友達と一緒にやりたくなったら、入っても良いよ。」「やっぱり一人が良いと思ったら、抜けても良いんだよ。」と助言する。その際には「友達にどのように声をかければ良いかな？」と問いかけるなど、自分の言葉で伝えさせるようにした。

●調べるための手段

知りたいことを調べるための手段をいくつか用意し、児童が自分で選択して活用できるようにする。

- ・これまでの献立コーナー（献立名・写真）
- ・服部先生相談コーナー
- ・嘉山先生相談コーナー（三色栄養表）
- ・お助けティーチャー

●質問できる場の設定

献立をより良く直す活動の際には「相談コーナー」を設け、知りたいことがあるときに、栄養士や養護教諭に聞きに行くことができるようにした。またT2は「お助けティーチャー」として、児童がヘルプを出したときに助言をする役割を担うようにした。「質問したら教えてもらえた」「教えてもらったら分かった」という経験を積み重ねることにより、困ったときに自分からヘルプを出すことができる力を育成したいと考えた。

5 学習指導計画（全 11 時間 本時 7 時間目）

次	時間	学習過程	主な学習活動	☆教師の関わり ◆評価規準【評価方法】
第一次 出会い 課題設定	1	本単元の活動（給食の献立を考える）を知り、献立を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「3月に、久我山学級で考えた給食の献立を出してもらえる」ということを知る。 ・各自で給食の献立を考える。 	☆「服部先生にお願いされた」と話すことで、児童に特別感をもたせ、意欲につなげる。 ◆知【観察】 給食の献立の名前を知ることができる。 ◆主【観察】 学習の方法（一人で・友達と・教員と）を選ぶことができる。
	2	自分たちの献立には足りないものがあることに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士に献立を見てもらう。 「どの献立も、そのままでは給食に出すには難しいなあ…。」 ・自分たちの考えた献立には何が足りなかったのかを予想する。 	☆栄養士から、一人一人の考えた献立について、「良い点」「給食に出すには難しい点」をコメントしてもらう。 ◆主【発表】 すすんで自分の考えを発表しようとしている。
第二次 探究 協働	3	『こんだての極意』について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士の話を聞き、『こんだての極意』について知る。 ①栄養バランス ②皿の数 ③旬 ④使える？使えない？	☆4つのポイントについて、3色栄養表や過去の給食の写真などを見せながら説明する。 ◆知【観察】 献立を考える際のポイントについて知ることができる。
	4 5	『こんだての極意』をもとに、教員の考えた献立をより良くする。 （本時に向けての練習）	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の『こんだての極意』を思い出す。 ・調べたいときの手段を知る。 ＊これまでの献立コーナー ＊服部先生相談コーナー ＊嘉山先生相談コーナー ＊おたすけティーチャー ・教員の考えた献立の中から1つ選び、『こんだての極意』を意識しながら、より良い献立に直す。 	☆『こんだての極意』を復唱させ、「この4つのポイントに気をつけるんだ」ということを意識させる。 ☆調べるための手段（コーナー）を幾つか用意し、最初に教員が手本を見せることで、児童が利用しやすいようにする。 ☆どうやって直したらよいのか分からない児童には、教員に「手伝って下さい。」と声をかけるよう促す。 ◆主【観察】 すすんでより良い献立にしようとしている。 ◆主【観察】 分からないときに調べたり、聞いて

	6	直した献立を発表する。	・前時にそれぞれが直した献立を、みんなの前で発表する。	たりすることができる。 ☆どこを変えたのかを言わせる。 説明できそうな児童には、『こんだての極意』のどこに注目して直したのかも説明させる。 ◆主【発表】 すすんで自分の考えを発表しようとしている。
	7 本 時	自分で考えた献立をより良くする。	・第4・5時の活動を思い出しながら、自分で考えた献立をより良い献立に直す。	☆『こんだての極意』『しらべたいときは』を確認する。 ◆思・判・表【観察】 献立を考える際のポイントを意識しながら、献立を見直すことができる。 ◆主【観察】 分からないときに調べたり、聞いたりすることができる。
	8	直した献立を発表する。	・前時にそれぞれが直した献立を、みんなの前で発表する。	☆どこを変えたのかを言わせる。 説明できそうな児童には、『こんだての極意』のどこに注目して直したのかも説明させる。 ☆栄養士に、よくできた点を評価してもらう。 ◆主【発表】 すすんで自分の考えを発表しようとしている。
	9	自分の考えた献立をプレゼンする準備をする。	・どの献立を給食に出してもらうかを決めるために、久我山学級のみみんなに投票してもらうことを確認する。 ・自分の考えた献立を選んでもらうために、1～3年生に向けてプレゼンする準備をする。	☆相手に伝えるためには、言い方を工夫したり、絵や図を用いたりすれば良いことを伝える。 ◆知【観察】 相手に伝わりやすい言い方や手段（絵や図を用いる等）を知ることができる。
	10	自分で考えた献立をプレゼンする。	・1～3年生に向けて、自分の考えた献立をプレゼンする。 ・4～6年生も含む全員で、良いと思った献立に投票する。	◆思・判・表【発表】 自分の考えた献立の良さを伝えるために、言い方を工夫したり、絵や図などの手段を使ったりしている。

	11	給食に出してもらった献立を決める。	<ul style="list-style-type: none"> ・投票の結果を聞く。 ・みんなの考えた献立を「献立アイディアブック」にして栄養士にプレゼントする。 	
--	----	-------------------	--	--

6 本時の指導 (7/11時)

(1) 本時のねらい

- ・『こんだての極意』を意識しながら、献立を見直すことができる。
- ・分からないときに調べたり、聞いたりすることができる。

※個別の目標と手立てについては別紙参照

(2) 展開

学習内容	主な学習活動	☆支援 ◆評価規準【評価方法】
1 本時の学習活動について知る。	○第4・5時の学習を振り返り、今日は自分で考えた献立をより良く直すということを確認する。	
じぶんの こんだてを かんせいさせよう		
	○『こんだての極意』『しらべたいときは』を思い出す。	☆『こんだての極意』『しらべたいときは』を掲示する。
<div>【こんだての極意】</div> <div>その一 栄養バランス</div> <div>その二 さらの数</div> <div>その三 旬のたべもの</div> <div>その四 使える？使えない？</div>	<div>【しらべたいときは】</div> <div>・これまでのこんだてコーナー</div> <div>・はっとりせんせい そうだんコーナー</div> <div>・かやませんせい そうだんコーナー</div> <div>・おたすけティーチャー</div>	
2 自分で考えた献立をより良くする。	○第1時に自分で考えた献立を、『こんだての極意』を意識しながら見直し、より良くする。 ・ワークシートの選択 ・学習方法の選択 (一人で・友達と・教員と)	☆終わりの時間を提示する。 ☆悩んでいる児童には、極意の中の1つに注目させ、「使えない材料はないかな?」「お皿の数はどうかな?」等助言する。 ※個別の支援は、別紙参照
3 本時の振り返りをし、次時への見通しをもつ。	○『こんだての極意』のどれを意識することができたか、挙手をする。 ○次時の活動(直した献立を発表する)を知る。	◆思・判・表【観察】 献立を考える際のポイントを意識しながら、献立を見直すことができる。 ◆主【観察】 分からないときに調べたり、聞いたりすることができる。